

南アルプス

尾白川流域 黄蓮谷左俣・篠沢七丈瀑

2008.12.28-31

L：河崎（記） 齊藤、杉山（AC横浜）

今回の年末年始は、一年前の西坊主沢の時から黄蓮谷に行きたいと思っていた。結果、積雪量の関係で右俣は断念したが、代わりに篠沢七丈瀑を登ることが出来、大氷瀑二つを登れて充実したものになった。これで、岳沢、黄蓮谷、尾白川流域等代表的なアルパインルートをトレースした事になる。尾白川流域の氷瀑はまだ残っているが、ここ数年アイスに力を入れてきた結果と言える。後はバーチカルアスを安定して登れるように、テクニクに力を入れたい。

他の二人は既に冬休みに入っていたが、私は仕事納めをしてからさっさと帰り、杉山さんに長後駅でピックアップしてもらい、齊藤さん宅に向かう。甲斐駒ヶ岳周辺は近くて良いエリアだ。駒ヶ岳神社で前夜話し合った結果、積雪が多くて右俣を登れない可能性があるので、ベースは5合目とする事に決まった。

12/28（日）

今日は5合目までなのでゆっくりと起床。長い黒戸尾根を登り始める。朝の感じだとアイスで入るパーティーは思ったより少なそうだ。

去年はトレーニング不足で登りは相当バテたが、今回は事前に各自2回ほど歩荷をしている。そのおかげもあり、昨年と比

べて辛くは無い。

途中から雪が出てきたが、思ったより少なく水作りが出来るか心配になる。

なんだかんだで休憩を含めて6時間弱で5合目に着いた。雪はそれなりにあり、水作りは出来そうだ。篠沢に行っているパーティーのテントがあり、張る場所が無かったが、帰って来たメンバーがいて、これから撤収するとの事で場所は確保できた。

篠沢は氷結状態は良い様だ。5合目からも凄い大きさで見えて、登攀意欲を刺激される。

時間もあるのでゆっくりと水作りをしながら入山祝いをやる。今晚のメニューはペミカンを使ったシチューで凄い量になってしまったが、意外とぺろりと食べてしまった。

風が始終強く、寝ている間も結構テントを揺らしていたので明日が心配された。

<コースタイム>

8：20（竹宇駒ヶ岳神社） - 14：10（5合目）

12/29（月）

起きてみると風は収まっているようだ。一安心して出発の準備をする。

暗いうちにヘッドランプを着けて出発。5合目からの下りは昨年来ていたの、大体覚えていたが、反射マークがついていて助かった。しかし、途中から道はずれ、しょうがないので適当に下って行くと、やっと元の道に合流した。

岩小屋の横を過ぎ、河原に降り立つ手前で3人パーティーに会った。坊主の沢を登攀したらしいが、F1しか登らなかったと

の事。

河原からは最初の滝は左から巻き、しばらく行くと坊主の滝が出てきた。先行パーティーが登り終わるところだった。



杉山さんリードで取付く。スムーズにザイルを延ばし順次登っていく。その後二俣から左俣に入るが、右俣は結構雪に埋もれているようだった。左俣では大滝手前の滝でもう一度ザイルを出す、こちらの方が傾斜はあった。

そしていよいよ左俣大滝が現れた。既に2パーティーが取付いているので、うちらは下で大休止とする。



そして登攀となるが、ありがたい事に二人に荷物を持ってもらって空身で登らせていただく事になる。完全にバーチカルのところは短く、ガイドブックの写真で見ると感じだったが、意外といやらしい部分もあった。無事登りきって二人をビレイする。大滝の上で休憩とするが、意外と体力を消耗しているようだ。登っていて、途中ふくらはぎがパンプしそうな事もあったからだ。しかし、斉藤さんは新型CW-Xタイツを履いている為か疲れが少ないようで、その後は元気に先頭を行ってもらおう。最後の滝は左から巻き、しばらく雪面を登って行くとトレースが左の斜面にトラバースしていたので辿っていくと、ひょっこりと登山道に出た。14時過ぎ、なかなかスムーズに来れた感じだ。

7合小屋でビールを買出ししたが、とても快適で中ではストーブがついていて、Tシャツ1枚でも過ごせるくらいだ。素泊まり3500円だそうだが、水もあり泊まる価値はありそうだ。先行していたパーティーが既に休んでいたが、ここに泊まればシュラフもサマーシュラフでも大丈夫そうで、荷物をかなり軽量化できそうだ。

テン場に着いて今日の充実した登攀の余韻に浸りながらしばし外の景色を眺めながらビールを飲む。こういう時が至福を感じる時だ。

明日は篠沢七丈瀑を登る事になったが、アプローチも近いので気持ちにも余裕がある。

<コースタイム>

4:15(起床)-5:45(出発)-7:00(出合)-10:10(左俣大滝下)-12:40(大滝

上) -14:15 (稜線) -15:45 (5合目)

12/30 (火)

ゆっくりと起きて十分明るくなってから出発。ガイドブック通り、丸木橋の所から下っていく。入山の時にいたパーティーのトレースがあるので助かる。約1時間で滝の下に着いたが、見上げる滝は相当大きい。みんなも圧倒されている。

今日はこの滝のみを登って、また降りてくるので、荷物は斉藤さんのサブザックに各自行動食とテルモスを入れさせてもらう。

水作りの手間を省こうと水筒も持ってきたが、予想通り水は取れそうだ。

登攀開始。1ピッチ目は傾斜はゆるく、スムーズに登っていく。傾斜が強くなる手前で、スクリューでビレイ。しかし、意外と足場は良くない。2ピッチ目は、取付きから見て、始めは左上する傾斜の緩い所を登ろうと考えていたが、知らないうちに難しい所に行ってしまう、苦戦する。力みもあってパンプしだし、何度もファイフィテンションをかけてやっとの事で上に抜ける。

腕を伸ばし、引き付けの時間を短くする基本を忘れ悪いパターンにはまってしまったようだ。気持ちも昨日で消耗してしまっていて、ギリギリで落ちそうになった瞬間もあった。まだまだ甘いなーと感じた。

二人をフォローするが結構厳しかったようだ。杉山さんはリーシュをつけていて、ファイフィテンションがやりにくかったようで、ザイルにテンションをかけて休みながら登っていた。

3ピッチ目は傾斜の緩いナメ状だが、既

にかなり消耗してしまっていて、ナメごときで疲れてしまった。上はしっかりした木があるのでそこでビレイ。みんな登りきってから休憩とする。大きな滝に登りきった達成感があるが、まだ懸垂で降りる仕事が残っている。



懸垂は左岸を木で支点を取って1ピッチと少々で下りられた。取付きに戻って、水を汲むともう結構良い時間である。

後は再び降りてきた道を登り返して、テンプルには昨日と同じ位に着いた。

滝のところで持ってきた氷で、ジンのオンザロックとしゃれ込む。全てが終わった、とみんな握手をする。天気にも恵まれ大きなルートを二つも登れた充実感があった。今年はまだ思い残すことは無い。

メンバーにも恵まれ、クライミングもそれなりに充実した良い一年であった。

いつも一緒に行ってくれている斉藤さんや、僕が大学4年で相模労山(現、相模

A C)の門をたたいた時に先輩だった杉山さんと再び縁があって最近また登り始めているが、改めて感謝したい。

その日は残りの予備食も使い、ゆっくりと食事をして床についた。しかし、隣の中高年パーティーが結構遅くまで騒いでいて迷惑であった。

<コースタイム>

7:20(出発)-8:20(七丈瀑下)-9:00(登攀開始)-1230(滝上)-13:30(滝下)-14:20(出発)-15:30(テン場)

12/31(水)

目覚ましもセットせず、明るくなってから適当に起きて出発。昨日からまた寒気が入ってきて夜は雪が多少降った。

久しぶりに冷え込んだ空気の中、下山に掛かる。途中、遠藤晴行らガイドパーティーに会ったが、以前岳沢や蔵王で会った人もいて山の世界の狭さを感じた。今日入山のアイスのパーティーも結構いた。

久しぶりに年内に山を降りた。毎年必ず年越し山行をしていたので新鮮である。この後ゆっくりと正月休みを過ごすことができると思うと気が楽だ。

帰りはすぐ近くの温泉に入ろうと思ったが休みで、いつもの武川の湯(?)で汗を流しいつものラーメン屋で食事をしよう…と思ったら閉店していてびっくり、結局サービスエリアで食べて帰路に着いた。

帰りも遅くならず余裕を持って家に着いた。

甲斐駒ヶ岳周辺は改めてアイスクライミングをやるには良いエリアだと思った

し、まだ行ってないルートもあるので今後も行ってみたい。

<コースタイム>

8:30(出発)-11:30(駒ヶ岳神社駐車場)